

2019年度
第①回



せいてん講座 @北御堂

開 催 報 告

本誌執筆陣の先生方による津村別院での生講義を、今年度は「せいてん講座@北御堂」と題してプチリニューアル。その第1回として、「ほとけのいる景色 アジヤンター石窟寺院」を連載中の打本和音先生による「ほとけのかたち、信仰のかたち ーインドのなかのアジヤンター石窟を開催しました。スライドを用いて行われた講義は、アジヤンター石窟寺院の概要・石窟寺院に関する基礎知識・仏教美術の展開と仏像の出現・アジヤンター石窟に関わった近代日本人々という盛りだくさんの内容。現地調査で何度もインドを訪れている打本先生が自ら撮影した、一般のツアーではなかなか見られないような画像や、一般のツアーでは絶対に体験しないようなエピソードなどをまじえて、本格的な研究成果をカジュアルに楽しくお話しいただきました。

先生の専門は仏教文化史。幅広い材料を基に、造営当時の石窟寺院と、そこに関わった人々の生き生きとした姿を描き出してゆきます。アジヤンターのように立派な石窟寺院は、専門技術を有する職人でなければ造ることができません。そして、それを依頼するには大金が必要になってきます。実は石窟寺院には、さまざまな職種の在家人や異教徒までもが寄進をしていたという



休憩時間に入る前にクイズが出されました。スクリーンに映っているのは仏陀不表現の時代に作られたサンチー仏塔塔門の彫刻。「この中に釈尊は何人おられるでしょう?」。人の形で表現されていない釈尊を探し出すという難問に、受講者の皆さんがチャレンジしています。

記録が残されており、仏教教団に経済的余裕があったことがうかがわれます。当時は海路西インドへやってくるギリシア人との間で盛んに交易が行われており、それによる繁栄が背景にあったのではないかと思います。また教団側も戦略的に、キャラバンが行き交う交通の要衝を選んで寺院を造立し、多くの寄進を集めていたそうです。

講義の最後に紹介されたのは日本画家・杉本哲郎（一八九九ー一九八五）。アジヤンター壁画の模写で大きな功績を残した彼が、最晩年に製作し津村別院に寄進したのが、会場外のホールに掲げられている巨大な壁画であるという味わい深いお話でした。

受講者の方からは「仏教美術に初めて興味があった」「アジヤンターを訪れたことはあるけれど新たな発見があった」といった感想を寄せていただきました。

【第2回の案内】

日 時	2019年10月8日(火) 18:30 ~ 20:25
場 所	本願寺津村別院(北御堂) 二尊堂 *地下鉄御堂筋線「本町」駅すぐ
講 師	藤丸 智雄氏(本願寺派総合研究所副所長)
講 題	〈いつの間にか〉の倫理学—『歎異抄』・運命決定論・中動態
受 講 料	無料 お申し込み 郵送・FAX又はWeb
持 ち 物	念珠 筆記用具
お申し込み先	浄土真宗本願寺派(西本願寺)総合研究所 http://j-soken.jp/join/10444/ 〒600-8349 京都市下京区堺町92 TEL 075-371-9244 FAX 075-371-5761



藤丸 智雄氏